

県政 NEWS

Innovation

新しい発想・技術・価値観で未来を創る。

【編集発行】 武田翔 政務活動事務所 〒222-0011 横浜市港北区菊名1-6-11 平田ビル3階
 TEL 045-947-2712 FAX 045-947-2713
 E-mail : info@shotakeda.com  Facebook 武田翔



武田 翔

Takeda Sho

プロフィール
 昭和56年生まれ
 神奈川県議会議員(1期)
 米国・カリフォルニア州大を卒業後
 参議院公設秘書を経て
 平成27年神奈川県議会議員選挙
 横浜市港北区に初当選。
 一児の父でもあり
 子育てと教育政策に
 力を注いでいる。

【2019年度 県予算案発表】 1兆8千299億円「保育・五輪」に重点

県議会の第1回定例会におきまして、2019年度の県予算案が発表されました。一般会計は総額1兆8329億円(18年度当初予算比-0.2%)となり、五輪準備費のほか10月から始まる「幼児教育・保育の無償化」の関連予算などがもりこまれた。教育・子育て分野に対して重点的に配分されたのが特徴です。

子育て支援では幼児教育・保育の無償化の関連費用として、139億円を計上し、また待機児童対策費では職を離れた保育士が復帰しやすくするため短時間勤務での雇用促進や、医療支援の必要な子ども向け看護師を保育施設に配備しやすくする支援も盛り込み。子育て関連の予算額は1,294億円となった。

今回の予算案を黒岩知事は、「持続可能な神奈川に向けた骨太な骨格予算として編成し、同時に子ども・子育て支援、企業誘致推進などの取組みにもしっかりと対応した予算」と評価しています。持続可能な社会を目指すには、必要な財源への選択と集中が必要不可欠です。そうした観

点からも、今回の予算案における教育・子育て分野への集中は、神奈川県の未来に対する施策としても注目すべきものです。

今年から来年に向け、県内ではラグビー・ワールドカップ(W杯)やアフリカ開発会議、2020年東京五輪・パラリンピックの開催など大型イベントが控え、テロ対策や警備対策費として新規に2,836万円、W杯・五輪会場周辺の防犯カメラ・映像分析システム導入費として5億1,190万円、五輪セーリング会場となる湘南港のヨット移動費等10億9,067万円を見積。また入所者の殺傷事件が発生した相模原市「津久井やまゆり園」再整備費に5億2,346円、電気自動車などの蓄電池としての活用設備導入費の補助、水素エネルギー利用に向けた研究費なども盛り込まれました。

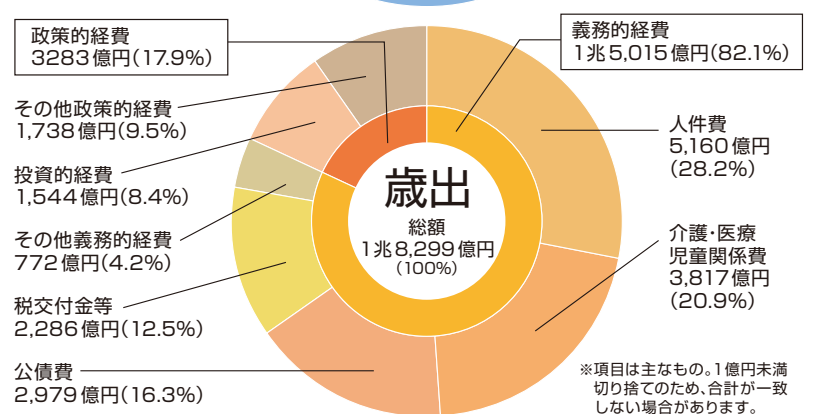
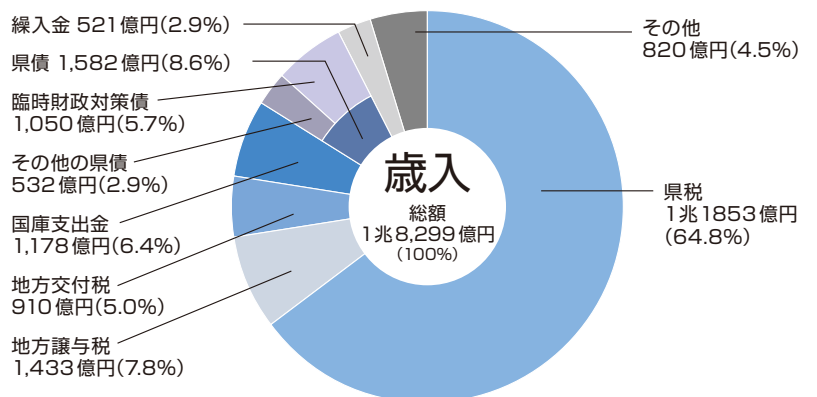
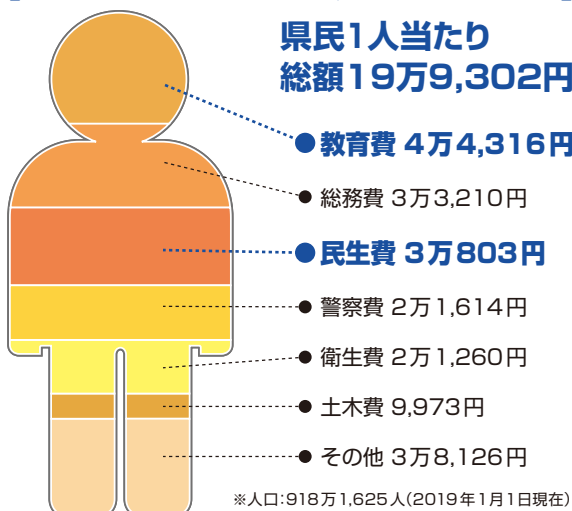
歳入では県税収入が0.4%増加し、好調な景気を背景に法人2税が7%地方消費税消費税率が3%増え、赤字県債を発行せず、臨時財政対策債の残高も01年度以降初めて減少した。

2019年度 県一般会計予算案

区分	2019年度当初予算額	対前年度比較
一般会計	1兆8,299億円	0.2%減
特別会計	2兆719億円	1.7%増
企業会計	1,137億円	3.1%減
総計	4兆155億円	0.7%増

※1億円未満切り捨て

【2019年度当初予算の使いみち】



約束を守る。

- 保育園・幼稚園の無償化
- 小児医療費助成対象年齢の拡大
- 自転車損害保険加入義務化

今から4年前の2015年地方統一選挙のときに、たくさんの方を皆様とお約束して、議会へ送り出させていただきました。今でも、昨日のことのように覚えています。

まず、保育園・幼稚園の無償化・小児医療費助成対象年齢の拡大を約束し、政府に働きかけた結果、保育園・幼稚園の無償化は、2019年10月より政策がスタートとなっています。そして、小児医療費助成対象年齢の拡大について横浜市は2019年4月より中学校3年生までが対象となります。これは、私たち世代の思いを政治が受け止めた結果だと考えています。

次に、自動車損害保険加入義務化です。交通事故が起きた場合の被害者救済と、加害者の経済的負担軽減を図るため、自動車利用者に対し、自動車保険の加入を求めると致しました。しかし、近年、自動車事故による高額賠償請求事例が全国各地で散見されるなど自動車の事故に対する社会的な責任の重みが増してきている状況にあります。現在、2019年4月に向けて条例制定の検討も大詰めを迎え、いよいよ最終段階となっています。皆様とお約束をしたことはしっかりと守る。そんな政治家であり続けたい。引き続き、子育て世代に力点を置いて、より住み良い神奈川県を皆様と共に構築していくことを宣言いたします。



「武田 翔」

は、なぜ!? 政治家を目指したのか。

選挙に行っても政治は変わらないとお考えではないでしょうか？私もその一人でした。しかし、子どもを授かったときに私の考え方は変わりました。子どもたちの未来を想像したときに、政治は変わらないのでは困る、政治を変えたい。政治を託す人よりも、自らが政治家となって、皆様と共に、「子どもは“未来力”だ」というキャッチフレーズで、子どもたちの輝く未来のために働きたいと決意しました。



誓います！神奈川県を元気にするための、皆様とのお約束。

少子化社会に対応した子育て支援の更なる充実

神奈川県の出生率1.6(2017年は1.34)を目指します。

横浜市立中学校の給食導入は、4年前もお約束をしましたが、いまだ道半ばです。引き続き実現に向けて汗を流して参ります。

障がいのある方々の“居場所づくり”

多くの継続就労支援B型作業所(障がいにより雇用契約を結んで働くことが困難な方が、軽作業などの就労訓練を行うことができる福祉サービス)は15時に閉所となります。その後、夕方まで児童・生徒のときのような「放課後デイサービス」が必要だと思います。障がいのある方だけでなく、家族に寄り添ったサポート体制の強化を推し進めて参ります。

「てんかん」の病名を時代に即した呼称に

成人病は“生活習慣病”、痴呆症は“認知症”、精神分裂症は“総合失調症”と時代の要請とともに名前が変わってきました。てんかんにも新たな呼称があって良いのではと考えます。

県民900万人を守る！安心・安全な減災の街づくり

災害を未然に防ぐ「防災」には限界があります。故に、災害時に被害を極小化する「減災」こそが大切だと考えています。

私は佐藤正久参議院議員の公設秘書として6年半ともに歩みつけ、災害発生後の危機管理について多くを学びました。福島県出身の佐藤議員は、東日本大震災の発災直後から、地元の人々を助けるために県内をくまなく回りました。そして、逐一、国の機関に福島の実情を報告し、福島で求められていることを発信してきました。そのような佐藤議員の背中をみながら、「減災」の必要性を強く感じました。

私達も応援しています。

いつも全力で県政にに取り組んでいる「武田翔」さんは私たちの大切な仲間です。

少子化が進むなか、子育てしやすく、働きやすく、安心して暮らせる、緑あふれる美しい街にしていかなければなりません。経済を活性化し、行政の無駄を省き必要となる所にしっかりと予算をつけて、理想の街づくりを目指す「武田翔」さんの見識と行動力に私達は大いに期待しています。



衆議院議員
財務副大臣

鈴木けいすけ



衆議院議員
内閣官房長官

菅 義偉